

# ハート・オブ・ゴールド

通信



vol.52

2025年1月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局  
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7  
レジデンスアロー 101  
TEL&FAX 086-284-9700  
E-mail: hginfo@hofg.org  
https://www.hofg.org/



家族との再会 (ソパン、ソチアター、ワンニー)



11月30日 日本からのお客様への歓迎ダンス



成績優秀で表彰 (ソバニー/NCCC)



高校卒業・中学入学 (スライモムとラティ)

## ニュー・チャイルドケア・センター (NCCC) 運営事業

プチュンバン (クメール盆)

プロジェクト・アシスタント 平井 利恵



家族そろってお寺参りに行くロッチ・スライホームさん

2024年のプチュンバンは、10月1日～3日でした。カンボジアの人々にとって最も大切な行事の一つです。学校や官公庁はお休みになり、NCCCで生活する子ども達も、里帰りをして家族と時間を共にします。

第11期留学生のロッチ・スライホームさんは、幼少期に兄妹、従姉と一緒にNCCCに入所しました。高校卒業と同時に日本の高校に語学留学を開始し、修了後は介護施設に就職し、自立した生活を送っています。少しずつ貯金を続け、プチュンバンにあわせて一時帰国をしました。自立を目指すNCCCの後輩達にも激励を送りました。スライホームさんの感想をご紹介します。

### カンボジアへの里帰り

第11期留学生 現介護施設職員

ロッチ・スライホーム (NCCC 出身)

5年ぶりに初めてカンボジアに帰ることができました。お母さんと妹たちが空港まで迎えに来てくれて抱きしめて涙が出ました。言葉にできないほど感動しました。

予めネットで衣装を注文し、きれいな伝統衣装を着て、家族みんなでお寺参りに行きました。うれしくてみんなニコニコしていました。兄は、休暇をとって子どもを連れて会いに来てくれました。自分でがんばって働いたお金で、家族と楽しい時を過ごすことができみんなの喜んだ顔をしっかりと心に残して日本に帰りました。これから、仕事と勉強を頑張らなくっちゃ!と自分に言い聞かせています。お母さんの家を建ててあげて、楽な生活をさせてあげることが昔からの夢でした。帰る日に、お母さんが「久しぶりに会ってもう帰ってしまうのは寂しい。でも気を付けて行ってらっしゃい。今度はもっと度々会いに来て」といわれました。

介護福祉士を目指しています。とても大変ですが、頑張ろうと決心しています。応援くださったペアレントやHGの皆様の期待に応えたいです。

\* NCCCは、ハート・ペアレント制度によって運営されています。子ども達が、未来に向かって生きていけるよう共に支えて下さい。お申し込みはこちらから→



### ハート・ペアレント様からのメッセージ

◇1年でやめようと思っていました。子どもの写真を見た時、施設を巣立つまで責任をもって支えようと思いました。ツアーで初めて会った時、片言の日本語で一生懸命、恥ずかしそうに話をしていたのを覚えています。留学もできてとても嬉しいです。 古田 利子様

◇NCCCの子ども達は、種々の事情で家族と別れ、多くの人の支援と自身の努力で生活し、そこで培った知力で、後輩の目標になる活動を行っています。その努力は、カンボジアの未来のために役立つでしょう。活動を応援します。 助台 榮一様

## カンボジアスタディツアー

事務局次長 井上 恭子

11月28日から5日間、32名にご参加いただきました。ツアー2日目は、HGももたろう日本語学校がある公立チェイ小学校の児童への歯科検診と歯磨き指導のボランティア活動を実施。今年で通算9回目となり、チームリーダーのTAO（東洋医学研究会）久保茂正先生を筆頭に8名の歯科医師の方々が手際よく、午前午後600人を超える児童、園児の口腔内をしっかりと診ていただきました。歯磨き指導では高学年には染色も行い、きちんと磨けているか、汚れが残っていないかを確認。各先生をツアーご参加の皆様、藤沢ロータリークラブの方々にサポートいただき、検診結果の記入や歯ブラシ、うがい用の水準備なども非常に手際よく行われ、予定時間内に終わることができました。有森代表もクメール語で書かれたポスターを手に、スタッフと一緒に虫歯予防を熱心に伝えていました。水飲み場では歯磨きを熱心に行っている子がたくさん見られ、この活動の初期に比べ、確実に虫歯が減っていることが報告されました。

3日目はNCCC訪問。子ども達がダンスでお迎えし、スタッフによる施設案内では、生活の不便さなどの話も交えながら、日常のありのままの様子をお知らせできました。また、中高校生に歯科検診も実施。今回は2名のペアレント様ツアーにご参加され、子どもは恥ずかし



AWHM 植野日本国大使ご夫妻と21km女子入賞3名

いけれど、とても幸せそうな様子でした。最後には、たくさんプレゼントを手渡しいただき、小さな子ども達は飛び上がるほどの驚きと喜びの笑顔でした。

4日目のアンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)は、フン・マネット首相参加による特別警戒のなか、約14,000人のランナー(うちカンボジア人10,000人)が21/10/5/3kmに参加。姉妹マラソンの「かすみがうらマラソン」の派遣選手3名が、21km女子の1/2/3位に入賞するという快挙。そして賞金をご寄付いただきました。

AWHMは次回30回記念大会です。このスタディツアーも更に大勢の方のご参加を心よりお待ちしております。

## 国際理解教育 — 共感・理解する心を育てる —

理事 田代 邦子



12月オンライン交流会

HGは創立時から、日本の青少年に「異文化を理解し「グローバル(地球規模)な考え方」を身に付け「共に生きていく力」を育むこと。そして自ら行動することで自分の力を実感し、希望と勇気を分かち合うことを進めてきました。

他の科目と大きく違うことは、知識をつけるというより、共感・理解する心を育てる(共に育つ)ことを重要視していることです。そのためにHGは「実践—やっ

みる」を大切にしています。「知って、やってみて、振り返る」この流れに沿って、活動を進めています。

10月岡山市立第3藤田小学校から、NCCCとHGももたろう日本語学校の子ども達に、生活物資、絵本、教材などたくさんの物資をいただきました。9月には朝日塾小学校で出前授業、その後、物資支援と募金をいただきました。11月には岡山市立野谷小学校にて出前授業、12月に第3藤田小学校とHGももたろう日本語学校の子ども達とオンライン交流を行いました。

子ども達からの物資支援は、12月のスタディツアーの方々のご協力によって現地に持ち込まれました。3学期には、子ども達の善意がどのように活用されたかを報告したいと考えています。

力の強い、声の大きい、財力がある人が大きな権力を持ち、善悪をも支配しつつ武力で命を操ることが垣間見えます。そんな中、小さなことでも力を合わせれば、何かできる事を感じてもらい、諦めないで進んでもらいたいものです。

国際理解教育についてはこちらから →



## 【JICA 草の根技術協力事業】

カンボジア王国 小学校から高等学校まで一貫した高い質で学ぶ

# 「Physical Education for ALL」プロジェクト

アドミニストレイティブ&プロジェクト・オフィサー 米山 遥香

10月9日～18日に本邦研修を実施しました。カンボジア教育・青年・スポーツ省から4名、プノンペン都、バットアンバン州、スパイリエン州の州郡教育局から各2名、小学校教員各1名の合計13名が参加しました。10日間で、東京学芸大学附属高等学校、同世田谷小学校、台東区立根岸小学校、同忍岡中学校、筑波大学附属中学校で体育授業を見学し、教員と質疑応答やディスカッションをしました。また、神奈川県立総合教育センター・スポーツセンターの視察、在日本国カンボジア王国大使館への表敬訪問も行いました。



本邦研修 参加者一同

スポーツの日にちなみ12日には、セミナーイベント「知ろう、考えよう、創ろう、カンボジアの体育」をJICA地球ひろばで実施しました。参加者と一緒にかんボジアの体育授業に沿ったリズム運動を考え、一緒に体を動かしながら、カンボジアと日本の体育について考えることができた良い機会になりました。



筑波大学附属中学校運動会練習に参加

本邦研修に参加したバットアンバン州の小学校教員ロム・シーネット先生は、「カンボジアに帰ったら、まず他の教員に日本での経験を伝え、よりよい体育の授業ができるように学んだことを広めていきたい。日本では特に子ども達によく考えさせ、話し合いを行ったうえで独自のルールを作り、問題が起こった際には子ども達同士の話し合いで解決する、という教育方法が印象に残っていて、同じように実践したいと思っています。また、体育で使う道具も工夫して作製し、子ども達にとってより楽しい体育の授業をしていきたいと思っています。」と話していました。日本の体育を視察したことによってカンボジア



岡出教授と熱心にメモをとる研修員

の体育がより子ども達の学びにつながる体育へと変わっていくことに期待したいです！

## 【日本 NGO 連携無償資金協力事業】

# ICT化による質の高い4年制体育教員養成大学支援プロジェクト

プロジェクト・マネージャー 手束 耕治



日本体育大学半田准教授によるWS Gr ワークの様子

グループができるまでに至っています。

9月：マレーシアで開催されたACPES（アセアン体育スポーツ学会）に6名が参加し、2名がNIPESとして初の論文発表を行いました。

3月31日から本事業の2年目が動いています。校舎建設の他、研修会やモニタリングを実施して、NIPESがさらに少しずつ変わってきています。

7月：NIPESの教員4名が日本体育大学の授業を見学し、シラバスの改善点や教科書の作成方法を学びました。8月には彼らが日本で学んだことをNIPES内で分かち合い、シラバス改定と教科書作成計画を策定しました。

8月：これまで一度も研修会を受けたことなかった図書館職員が、研修参加によって図書の分類ができるようになり、新しいシステム（PMB）へのデータ入力を開始しました。

9月：日本体育大学の半田勝久准教授が渡カンして、日本のカウンセリングサービスの実態や子どもの人権、オンブズワーク等について講義頂きました。参加者はカウンセラーの基礎的な知識を身につけ、その後カウンセリング

## 能登半島地震被災者支援活動

11月4日、石川県珠洲市において、NPO法人クラブパレットの活動に協力して、有森代表とHG西日本ボランティアリーダーの島尾百合子さんが被災地支援活動を行いました。被災地家屋ではがれき等の運び出しを行い、イベント会場となった珠洲市蛸島小学校には子ども食堂を運営する団体と炊き出し支援、健康体操とスポーツ遊びを行い、住民と交流を深めました。支援物資として集まった物資も多くの方に持ち帰っていただきました。

島尾百合子さんからの感想を以下に抜粋して掲載させていただきます。「今後、ハートオブゴールドとして何が出来るか。まずは、ずっと気に留めていることを表明し続ける。そして、学校支援、スポーツ支援であれば他組織と連携して行えるのではと思いました。元日の発災以来、ずっと気になっていた能登の被災地をお尋ねできたことはとても貴重でした。」

この活動に皆様からの支援を募っています。備考欄に「能登支援」とご明記ください。 寄付はこちらから →



健康体操とスポーツ遊びの様子



## HG クラブからお知らせ

### ■ HG 飯田クラブ

会長が酒井馨さんから北原誠治さん、事務局長が羽場一雄さんから林清志さんに交代されました。

### ■ HG 福島クラブ

9月20日、有森代表出席のもと総会が開催され、活動報告並びに次年度事業計画が決まりました。本田直会長からHGに支援金が手渡されました。任期満了に伴う役員改選で、新会長に今野金哉さん（クラブ事務局長）が選ばれました。

## スタッフ退職のお知らせ

## 20年間ありがとうございました



私は2004年11月から2006年10月までカンボジア学生ボランティアリーダーとして、HGの活動に参加しました。その後、HGの職員となり体育科教育プロジェクトに関わりました。

最初は分からないことばかりで、山口事務局長（当時）に厳しく教えられ、それでも泣きながらついていきました。その時に、勿論スポーツ用語が分かりませんでした。日本人の考え方やカンボジアの教育・青年・スポーツ省の人達の考え方なども分かりませんでした。HGの仕事はハードルがとても高かったです。次の所長は西山さんでした。カンボジアや日本の教育システム、他の東南アジアについても学びました。教育省の人達とも一緒に、たくさんのことを勉強することができて、本当にとても幸運でした。

私が学生の頃は、体育は軍事訓練でした。でも今はHGのおかげで「新しい体育」の授業が始まっています。私の子ども達は、新しい体育を勉強できます。私にとっては、この仕事は本当に大切な仕事でした。

そして度々日本に行くこともできて、日本とカンボジアの文化の違いを知り、日本の学校の先生達とも友達になりました。20年間幸せでした。私も学んだことを、これからの人生に活かしていきます。これからもHGが、益々大きくなる事を願っています。

皆様、カンボジアに来られるときは、ご連絡ください。どうぞお元気で、ご活躍ください。 ケオ ソチェトラ

## 新スタッフ紹介 ◆ 柳館卓



お待たせしました。お待たせし過ぎたかもしれません(笑)。HG 東南アジア事務所にてNIPESプロジェクトに携わること1年と5ヶ月。ようやく自己紹介の場を頂きました。カンボジアでは元々プロサッカー選手として5シーズンプレー、現在はNIPESプロジェクトにてオフィスと現場(フィールド)を縦横無尽に駆けまわっています！カンボジアの体育科教育の発展のために、また我々がこんな活動をしているということをもっと多くの方々に知ってもらえる様に尽力していきます！

## アセアン体育学会でHGスタッフが受賞



カンボジア人スタッフのヴォン・ヴィライさんが、9月17日から21日までマレーシアでのアセアン体育学会(ACPES)に参加し、「学校のマネジメントと教員の関係に着目した良質の体育の導入の主要な特徴」について発表しました。

論文の作成から発表に至るまで大変苦労されましたが、成長の機会として注力し、約130名のプレゼンの中で5名のみ選ばれる優秀発表者に選ばれました。今回の表彰を糧に更に活動を深めていかれることを期待しております。

## 事務局より

\* **HG 会員募集!** 友人・お知り合いの方をお誘いください。  
正会員 (個人1口3,000円/年、法人1口30,000円/年)  
賛助会員 (個人10,000円/年、法人50,000円/年)

\* **ボランティア・インターン募集!**

現地活動、本部事務局にて事務補助、翻訳、イベント補助、通信発送 (年2回) をして下さる方。

\* **メールアドレスの登録**

通信やお知らせ等をメール配信しています。  
郵送から変更を希望される方は、右 QR コードより登録画面で手続きをしてください。また、@hofg.org からのメールを受信できるようご自身のメール受信設定をお願いします。



メール登録はこちらから

\* **集めています**

未使用の切手、レターパック、書き損じはがき、QUO カード、商品券など、本部事務局までお送りください。なお、テレホンカード、書き損じはがきは「寄贈品」扱いとなり、額面の寄付とはなりませんので、ご了承ください。

タオル、せっけん、日用品、文具 (ノート・鉛筆・青ペン等) も同様に集めています。新品に限らせていただいています。ご了承ください。

### 『平和とは何だろう』

11月23日(土) 学校法人湘南学園において「みんなで世界を平和に! 戦地や被災地で苦しむ人々を助けていこう!」をテーマに第34回 インターアクト年次大会が開催され、西山事務局長が講演しました。そもそも「平和」とは何だろうと、参加した10



校の中・高校生ひとり一人に問いかけをし、異なる価値観を持った世界の人たちが、どのような「平和」を認識しているかを想像した上で、HG が実施しているカンボジアでの体育科教育支援活動を例に、自分の国ではない他国にどんなことができるのかを考えてもらいました。このような「平和」について考えることができる機会があることが、学生の皆さんにとっては大切なのではないかと考えています。国内の学校・団体に講演をご希望の方は、ぜひ事務局までご連絡ください。

講師派遣はこちらから→



**2025年12月7日**  
**第30回 AWHM 開催決定!**  
**併せてスタディツアーを開催します。**  
**奮ってご参加ください。**

## 謹んでご冥福をお祈りします

HG の活動を支えてくださった3の方が相次いでご逝去されました。

8月にご逝去された**高石ともや様** (HG 設立当初から2021年までに理事)、**中島博様** (2005年から2021年まで理事) には多大なご協力・ご指導を頂きました。そして10月には2007年よりHG事務局を支えていただいた**有森玄治様**とお別れをすることになりました。長年の企業での豊かな経験 (研究開発、労働組合、役員) を基にHGの総務全般をご指導頂きました。また、カンボジアの留学生を大切に、かわいがって下さいました。

3人の方を偲びながらご冥福をお祈りし、これからも頑張っていきたいと決意を新たにしています

### 主な活動報告 (2024 年後半・敬称略)

- 9/11 国際交流基金活動見学 (HG ももたろう日本語学校)
- 9/13 エイコーススポーツ株式会社 私募債贈呈式 出前授業 (@朝日塾小学校)
- 9/14 第14回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国
- 9/19 (N 連事業) マラ工科大学と覚書締結
- 9/20 HG 福島クラブ総会
- 9/27 アンコールワット国際ハーフマラソン 2023 寄付式典
- 10/1-3 NCCC 里帰り (プチュンバン (盆))
- 10/9-18 JICA 事業 本邦研修
- 10/12 JICA 地球ひろばセミナー『知ろう、創ろう、考えよう、カンボジアの体育』
- 10/25 シェムリアップ日本映画祭開会式招待参加 (HG ももたろう日本語学校)
- 11/4 能登支援活動 (NPO 法人クラブパレット)
- 11/5 かめのり財団二次選考会
- 11/7 エイコーススポーツ株式会社 シューズ贈呈式
- 11/8 出前授業 (@岡山市立野谷小学校)
- 11/23 国際ロータリークラブ 第2780地区 第34回インターアクト年次大会 講演
- 11/28-12/2 カンボジアスタディツアー
- 11/30 AWHM 前夜祭
- 12/1 アンコールワット国際ハーフマラソン
- 12/5 岡山市立第3 藤田小学校オンライン交流会 (HG ももたろう日本語学校)
- 12/7 奈良マラソン 2024 ブース出展
- 12/14 第43回山陽女子ロードレース大会 パネル出展
- 12/16 第2回理事会
- 12/18 在シェムリアップ日本国領事事務所長活動見学 (NCCC、HG ももたろう日本語学校)

### 主な活動予定 (2025 年前半) 変更あり

- 1/10,14 岡山学芸館清秀中学校研修旅行受け入れ (NCCC と HG ももたろう日本語学校)
- 1/15-23 障がい者事業 パラ陸上アスリート写真展 (Sra'Ar Gallery in プノンペン)
- 1/22 岡山せとうちライオンズクラブ例会 活動報告
- 1/30 JICA 草の根技術協力事業「カンボジア王国 小学校から高等学校までの全ての生徒が学ぶ「PE for ALL」プロジェクト」終了式
- 2月 2024年度第3回理事会
- 2/17-3/17 JICA 海外協力隊短期派遣 (日本体育大学連携) 受入
- 2/20-24 NIPES トレーニング研修 (in タイ)
- 3/23 淀川マラソン&ウォーク 2025
- 4/14-16 NCCC 里帰り (クメール正月)
- 4/20 かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン 2025
- 6月 2024年度第4回理事会、総会、2025年度第1回理事会